おかげさまで設立40周年
40th anniversary

Minato Silver News
みなとシルバーニュース　No.87

公益社団法人 港区シルバー人材センター ●平成30年5月15日発行／会員数1,648人（4月15日現在）

ここはどこ？

ここは港区のどこでしょう？わかった方は、氏名・住所・回答を記入の上
FAXまたはハガキで事務局「ニュース係」までご連絡ください。５月31日必着

好評LINE講座

LINEを取巻くネットの世界

この講座はセンターが、会員の方にも今はやりのLINEをテーマに、友人の輪を広げていただくと共に、スマートフォンを生活の中でもっと便利に利用してもらう目的で開催したものです。

2月26日の午後1時30分からセンター3階の研修室で行われた「LINEを取り巻くネットの世界」と題した無料講座には、16人の会員が参加しました。

1月に初めてのLINE講座を開催したところ、定員20人に対し30人が参加して好評でした。今回の講義では、この時の参加者の方から要望の強かったネットについての詳しい説明も力を入れて行われました。

講座ではまず、講師の風間章由(かざまふみよし)さんからインターネットはどういうものなのかと言う説明から始まり、LINEの仕組みや注意点などについてきめの細かい説明がありました。

全国的に珍しいシルバー講習会

全国のシルバー人材センターの中でもLINE講座を早々と開講させた講師の風間さんは、きっかけなどについて「港区シルバー人材センターのパソコン教室グループには17年の歴史があり講師陣も経験豊富な方達ばかりです。しかし、最近はパソコンよりも、スマホやタブレットに対する需要が高まってきました。こうしたなか、LINEを始めてみたいという声が聞こえてきました。

LINEはメッセージを送った相手が、そのメッセージを読んだという印『**既読**』が瞬時に出てわかるので大変便利です。安否情報の上でも大きな武器になると考え新しく講座を開催しました。パソコン講座に新しい風を吹き込みたいと思っています」と話していました。

講座に参加した男性会員は「LINEは知っていますが自分のレベルを知りたくて参加しました」と話していました。

また別の女性会員は「知り合いが私とLINEをしたいというので講習に参加しました。LINEはメールや電話に料金がかからないのでうれしいわ」と楽しそうに話してくれました。

夢はLINEで高齢化対策

風間さんの夢は、飛行機からテレビまでインターネットで繋がる時代に高齢者対策として活用することです。高齢者を一人にしない、孤立化させない事にLINEを大きく役立てていくためにも講座をシリーズで続けたいと熱を入れて話してくれた姿が印象的でした。

好評につき、みなとふれあい館では年間を通したLINEの講座を開講しています。

問い合わせ：みなとふれあい館
☎03―5475―1305

交流カフェ“いっぷく”

センターでは会員の皆さんが就業報告書を事務局に提出する月初の午前10時～午後4時まで、3階ロビーを開放して交流カフェ「いっぷく」を開催しています。運営するのは社会奉仕活動委員会。「会員の交流や情報交換の場所として立ち上げました。初めて会った会員同士でも就業先での悩みなど、些細な意見を気軽に話し合える場です」と武縄勲勇（たけなわいさお）委員長。「会員だけではなく、事務局をサポートする役割も担っています」と石井顕子副委員長はにこやかに語っていました。

ここでは「思いがけない出会い」を目標のひとつに掲げているそうですが、30年ぶりに偶然出会った会員同士が楽しそうに歓談する姿も見受けられました。センターを訪れる会員に呼びかけるボランティアスタッフの声が、ロビーに明るく響きます。

使用済み切手

港区社会福祉協議会から使用済み切手の周囲を切る作業の協力要請があり、センターで集められた切手の周囲を切る作業をボランティア会員が担当しています。お喋りしながら指先を動かす作業は楽しそう。

小物販売

小物グループの会員が制作した作品を販売しています。作品は会員達が考えた手作りのもので、いつでもロビーで購入できます。

就業相談会がスタート

未就業者の対策に力を入れている就業対策委員会のメンバーが中心となって、仕事探しのお手伝いをしています。

「いまどのような仕事があるか知りたい。時間に余裕ができたので働いてみたい。仕事だけではなく、ボランティア活動もしたい。このような会員はぜひいらしてご自分の就業希望をお話し下さい」と澁谷厚委員長。第1回目は11名の相談者に対して6名の面接が決まり、幸先のいいスタートを切りました。

Smile to Smile サービス開始

このサービスを利用するためには利用登録の手続きが必要となります。自分で手続ができない方はカフェで登録作業をお手伝いする研修委員会のメンバーがお待ちしています。スマホ持参でいらしてください。

次回の開催は6月1日㈮。就業報告書を提出する人もそうでない人も、皆さんカフェに立ち寄って、ちょっとだけ楽しいひとときを過ごしませんか。笑顔があり、会話があり、元気が生まれる場所です。

参加しよう！ 地域班会議

港区シルバー人材センターは17の地域班で構成され、会員は入会と同時に地域班の一員となります。年2回開催される地域班会議の記事をシルバーニュースNo.82号より随時掲載してきましたが、今回は最後の3班をご紹介致します。

北青山班

現在74名が登録。平成29年12月6日、青山いきいきプラザで開催され、36名が出席しました。

会議は宮本啓子班長の挨拶で始まり、10月31日に行われた『シルバー感謝デー清掃ボランティア』等の報告がありました。

続いての出前講座は、明治大学落語研究会出身の漫才コンビによる「ダメよダメダメ、ニセ電話」。顔の見えない振込詐欺などに巻き込まれたら警察・消費者センターに迷わず相談すること。巧みな会話で一人暮らしの高齢者を狙う悪徳セールスマンの訪問販売も増えています。被害にあった場合は8日以内なら無条件に解約できるクーリングオフを利用するようにと、内容も盛沢山でした。

会場が笑いに包まれ、和やかな雰囲気になったところで澁谷厚地区担当理事によるシルバー派遣事業拡大への取り組みや、基本計画についての現状報告がありました。

続いて佐野和典前事務局長からは「目標会員1650人を超えているのはとても喜ばしいことだが、登下校、駐輪場、家事援助などに手を挙げてくれる会員が少ないので協力して頂きたい」との要望がありました。文京区から研修派遣の赤羽隆志職員は「就業者の少ない配布を担当していますので、希望者は是非声をかけて下さい」と話していました。

最後は出席者による自己紹介と活発な意見交換で会は終了。会員になって22年の梅崎正枝さんは「会場が住まいに近いこともあるし、団地の住民が多いので初期から出席率は良いですね。期日が近づくと皆で声を掛け合っています」と語っていましたが、今回も約半数が出席で、17班中1番の出席率と褒められるだけの、活気ある班会議でした。

新橋・愛宕班

現在24名が登録。平成29年11月24日、「虎ノ門いきいきプラザ」で開催され、3名が出席しました。

新しく選任された川井靖詔（かわいやすつぐ）班長からの挨拶に次いで、出前講座は立川がじらさんによる落語仕立ての詐欺話でした。新手の巧妙な手口による詐欺被害は増加傾向にあり、平成29年の特殊詐欺被害状況は約78億8千万円になります。詐欺師が使う魔法の言葉として「**今だけですよ**」という時間的限定の言葉と、「**あなただけに**」という空間的限定のキーワードにつ

いては参考になりました。
　続いて高橋純之地区担当理事によるセンター現況報告。事務局からはインターネットを利用した情報提供サービスで、センターと会員との連携が強化される「Smile to Smile」についての詳しい説明がありました。
　見学で参加した六本木班副班長の足立徳子さんは「テレビ番組でコメンテーターの立川志らくさんを見ているので、門下生のがじらさんは親しみが持てましたし、具体的な被害防止対策の話も楽しませてもらいました」。また、会員の木島順子さんは「毎回、会員に声をかけて誘うように努めています」と語っていました。

　厚生労働省が3月に「健康寿命」の推計値を発表しましたが、前回調査より年齢は延びていて、中高年の社会参加が増えていることが健康寿命の延びにつながっているようです。班会議も社会参加の一つであり、事務局に要望が出せる場所なので、皆様ぜひ参加しましょう。

三田班

　現在155名が登録、11月29日豊岡いきいきプラザで開催され、44人が出席しました。はじめに三田班の班長で様々な就業で活躍され昨年ご逝去されました山中貞雄前副会長に、黙祷をささげました。その後会議が始まり、増間碌朗（ますまろくろう）副班長の挨拶があり、そのなかで三田班の近々の就業率、入会者数、退会者数等の現状についての資料が配られ説明がありました。次はアトラクションです。今回は三田班会員の中崎保さんによる津軽三味線の演奏を披露してもらいました。宮城県のさいたろう節、山形県の花笠音頭等、馴染みのある民謡に聴き惚れている人、目を閉じて聞いている人、手拍子をしている人、皆さんそれぞれに楽しいひとときを過ごしたのではないでしょうか。次回のアトラクションも会員でと、すでに手を挙げてくれた方もいて今後がとても楽しみです。

　次に堀次長からセンターの現況報告があり、干場主任からはSmile to Smile のサービス開始についての説明を聞きました。
　続いて会員の自己紹介もあり皆さんからの疑問、質問なども伺いました。そのなかで1＋1（ワンプラスワン）運動で会員の増強に力を入れているが就業率は上がるのか？安全就業についてどんな事故があるのか？などの質問があり盛会のうちに会議は終了致しました。今回出席した方の中に89才で公園清掃をしている方もいて、皆さんの就業に対する意欲とシルバー人材センターに対する熱い思いを感じ取った取材となりました。最後に今回のお弁当は特別注文のにぎり寿司でした。おいしかったですよ。

お疲れさまでした

春は出会いと別れが行きかう季節です。本年3月末で退職されたお2人からのご挨拶です。
長い間どうもありがとうございました。

退任のあいさつ

前事務局長
佐野　和典

短い間でしたがありがとうございました。これまで健康で無事過ごしてこれたのは、会員や職員の皆様のご支援のおかげだと感謝しています。いろいろとご支援・ご指導いただきありがとうございました。

私はこれまで港区で、街づくりの仕事にかかわってきましたが、シルバー人材センターに就職していなければ、このような世界があることに気づかないまま人生を過ごしたかもしれません。センターを知ったこと、いろいろな人に会えたこと、仕事や生きがいについてあらためて考えたこと、このセンターの2年間は、自分の人生にとっては有意義なものとなりました。

また、センターとしての仕事も基本計画の策定や、派遣事業の実施、収支相償問題の解消等前進できてよかったと思っています。

港区シルバー人材センターは、魅力的で活力のあるセンターです。会員や職員は仕事への熱意が強く、ボランティア活動も盛んで、いつもオープンで明るい雰囲気を醸し出しています。会員を増やし続けていること、いろいろな仕事や多様な人材を集める努力をしていることが、センターの魅力や活力を高める力になっていると思います。引き続き、皆様の活躍を期待しています。

4月からは大好きな馬に乗りながらの年金生活者になります。大学院に入って勉強しながら、しばらくは遊んで暮らします。

2年間ありがとうございました。

笑顔で ～ありがとう～

日向　祐子

先日、友人の連れ合いから「四耐」についてというメルマガが送られてきた。博識の彼によると曾国藩（19世紀の中国の軍人・政治家）の言葉で、「冷」「苦」「煩」「閑」を「四耐」といい、人間が生きていくうえで耐えていかなくてはならない四つのことなのだそうだ。

鈍いところもあり耐えるほどの「冷」「苦」は、無かったように思う。「煩」も咽元過ぎれば「あの時は忙しかったなぁ」で何とかなってしまったと思っている。

問題は「閑」。「四耐」のうち「閑」に耐えるのが一番大変なのだそうだ。今までは「閑」とは程遠い生活だった。用事があるから休暇を取り、土日のうち1日は出かけている。たまに家にいると何もしないでテレビを見ているだけ。そんな日の翌日は、ペースを戻すまでが大変だった。

退職をするということは、24時間が全部自分で使えるということだが、毎日が日曜日にはしたくない。これから「閑」に耐えなければならないのだろうか？

ここで、会員の皆さんにお会いできたことにお礼を言わなくてはならない。

「閑」に耐え兼ねシルバー人材センターに入会し、嬉々として笑顔で日々を過ごしている皆さんは、見事に「閑」を克服した姿そのものだからだ。

高齢の両親に少しでも寄り添う時間がほしいと自分から定年で退職をすることを決めたとはいえ、まったく不安がなかったわけではないが、皆さんの笑顔のお蔭で、退職後の過ごし方を鬱々と考えることもなく、何かと忙しく過ごすことが出来そうだ。

今まで関わった会員の皆さん。ありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。どこかでお会いしましょう。

郡山市シルバー人材センター・宇都宮市シルバー人材センター
役員研修視察

就業対策委員長　澁谷　厚

センター理事会では、事業で先進的な取り組みをしているシルバー人材センター（以下ＳＣ）へ研修視察を実施しています。今年度は派遣事業と独自事業拡大の参考にするため、１月25日～26日にかけて郡山市ＳＣと宇都宮市ＳＣを訪問しました。

両センターとも私達を暖かく迎え入れ、多くの質問に熱心に答えていただきました。

郡山市シルバー人材センター

「郡山市ＳＣでは派遣事業が急増していますが、請負からスムーズに派遣に移行していますか？」との質問に対して「お客様との長い付き合いのなかで人間関係を構築しており、今ではＳＣ会員の協力無くしては成立しない取引先も増えています。従ってスムーズに移行できました」と素晴らしい答えが返ってきました。更に、請負事業についても並行して新規開拓を行っているとのことです。

「シルバーショップ憩いの広場」事業では会員の皆さんが集まってお茶を飲んだりするだけではなく、野菜や果物の即売を行うことで就業機会を創出しているようです。会員拡大では、当シルバーの「１＋１（ワンプラス　ワン）運動」と同様に「広報こおりやま」が一番の効果があるとの話で、会員からの紹介にも積極的に取り組んでいました。

宇都宮市シルバー人材センター

宇都宮市ＳＣが拠点としている市の総合福祉センターでは、厨房をお借りして高齢者に居場所を提供して行う事業を展開しています。「はなむすび」と名付けられたこの事業では、宇都宮市シルバーのキャラクターグッズの販売の他、日替わり弁当を販売していて、３キロ以内の高齢者に宅配も行っているとのことでした。同クラブに調理師さんがいたことで実現可能になった事業ですが、高齢者の居場所として歌声喫茶、手芸など楽しい企画が一杯だそうです。残念ながら私たちが訪ねた時は「はなむすび」の営業は終了していました。

当シルバーとしても派遣事業が増加していくものと思われ、今回の視察を今後の参考にしたいと思います。

雑記帳

日々の色々な事に息切れを感じると、温泉に浸かりたい衝動にかられる。湯に浸ると凝り固まった心身がふ～っとほぐれていく感じが何とも言えない。幸いなことに近所に珈琲色の温泉銭湯があり、一役買っている。

旅行が好きで、各地の温泉に入り、素敵な所は数多あるのだが、私にとって一番の温泉といえば、母の実家がある伊豆の共同湯だ。そこはカランもなく湯舟のみの源泉かけ流し。山の湧水で加水しているが、熱めの湯。この熱めがよく、湯上り冬は体がポカポカ、夏はさっぱりとする。

石鹸箱の蓋をコップ代わりに元湯を飲むと癖がなく、飲みやすい。胃腸にいいそうだ。１０２歳まで長生きした祖母が毎日入っていた湯でもある。

地元の人しか利用できないので、祖母が亡くなってからは気軽に入れなくなってしまったのが残念だ。そんなこともあり、懐かしさを求めて、旅行に出ると共同湯を探す。ぴりっと熱めの湯が、私を元気にさせてくれる。

事務局　古賀　未夏

〒106-0047 東京都港区南麻布1-5-26 TEL 03-5232-9681 FAX 03-5232-9680 ホームページ http://www.minato-sc.or.jp Eメール info@minato-sc.or.jp

趣味悠々 Origami

『勇気を持って堂々と』おりがみ国際文化交流

岡田 美智子（北青山班）

「みっちゃん、君は何か技術をもっていないかい」と声をかけられたのがきっかけとなり、開発途上国の国づくりに貢献しようとする青年に対して国が目的達成の機会を提供し、その活動を支援する青年海外協力隊のある事を知ったのである。

運よく青年海外協力隊員となりマレーシア国（家政科指導）への派遣が決まった。その出発前、母から「みっちゃん、この折り紙をもっていきなさい。きっと役に立つから！」と言って数冊の折り紙を渡された。

思い起こせば私が折り紙を始めたのは3歳ごろだったと思う。祖母、母、叔母、叔父からいろんな折り方を教わった。小さな手でちょこちょこ折る私が、愛おしかったのだろう。

1975年4月マレーシア国プルリス州にある「職業訓練高等学校」へ編み物教師として赴任した。授業の休憩時間を利用して日本の文化折り紙について話しながら鶴を折って見せた。すると、生徒たちは折り紙に大変興味を示し、私を「折り紙」とか「鶴」と呼びだした。折り紙によって生徒たち・教員・スタッフたちとのコミュニケーションもでき信頼関係も生まれ協力活動は順調に行えた。

1982年JICAから『シニア―海外ボランティア』としてインドネシア国へ『手工芸デザイン・新製品開発』の分野で数回長期派遣で赴任した。派遣されるたび赴任地は異なったが、暇を見つけては、小学生から熟年者まで、折り紙交流に努めた。そのかいあって日本の折り紙はかなり広まった。私の国際協力活動は折り紙によって潤滑に行われたと言っても過言ではない。

以前ラジオで『手は外に出た脳』という言葉を聞いたことがあった。私はこの言葉に大変興味を持ち、外に出た脳を育てるには子どものころから慣れ親しんだ折り紙が最適と考え、1995年日本折り紙協会の存在を知り、翌年折り紙講師の資格を取得した。その後、チャンスを見つけては、港区・渋谷区・国際協力等で折り紙指導を行っている。

今年の1月から、港区シルバー人材センターのご協力のもとに「みなとふれあい館カルチャー講座」において倉坪妙子氏と協力して「のびのび・おりがみを嬉しむ会」とし折り紙教室を発足させた。多くの方のご尽力のもとに、折り紙教室は順調に歩み出している。

折って楽しく、完成してうれしい、そして贈る喜び。折り紙の力で脳が元気になるよう心を折り込み、折り目正しく堂々と。

臥薪嘗胆

編集後記

毎月の事務局だよりで、安全管理委員会から事故報告が掲載されているのをご存知ですか？残念ながら29年度は前年の倍の件数を発生してしまいました。やはり多いのは就業の行き帰りの転倒による骨折だそうです。ある日の新聞に骨折「ぬ、か、づけ」に注意という記事が載っていました。「ぬ」は濡れているところ「か」は階段や段差「づけ」はかたづけないところ。そうなんです転びやすい場所を知っておく事が大切なのです。骨折により家にこもりがちになり人と接しなくなる。こんな事にならないように充分に気をつけて、初夏の陽射しを浴びて体にいっぱいのカルシウムを吸収することにいたしましょう。（砂辺）

定時総会のお知らせ

今年は設立40周年です

◆日時 6月25日(月) 13：00～

◆場所 港区立赤坂区民センター

第86号「ここはどこ？」

第86号の正解は麻布氷川神社でした。少し難しすぎたみたいでしたが、正解者2名でした。今回はチャンス問題です。わかるかな？